



## JNCCヒストリー

JNCC代表 星野正美は1984年から関東を中心にXC開催を始め、1987年友人で世界的に有名なアメリカ人MXライダー Bob Hannah (ハリケーンハナ) をゲスト招聘し行ったのがハリケーンエンデューロの始まりです。

以来ハリケーンエンデューロは毎年世界の有名なXCライダーを招聘してきましたが特にUSAからの親善大使として10回の出場を果たしたRandyホーキンスの日本XC界への貢献度は大きく、日本のトップライダーは彼と走ることで世界のレベルを知りまたその背中を追って速くなって行ったと言っても過言ではないでしょう。

そして1995年からは、それまで統一されたクラス分けや競技規則が無かった日本XC界にAAを頂点としたクラス分けとXCにおける統一競技規則の確立を提唱し、名称をそのメッセージを盛り込んだAAGPと改め現在に至っています。

AAGPの歴史は正に日本XCの歴史です。2004年には日本XC史に残るであろうSERIES全日本XCエンデューロ選手権が誕生しましたが、AAGPはこのSERIESでも最終戦として大きな重責を果たしてきました。

そして2006年、AAGPで提唱してきたAAを頂点とするクラス分けも統一競技規則の確立もかなり定着してきたことにより、AAGPは更なるステップとなるJNCCへと進む事になったのです。

## AAGP

これまで統一競技規則が無く、故に競技の発展が乏しかった日本XC界において、統一競技規則の必要性和AAを頂点としたクラス分けの提唱をネーミングに込め誕生したAAGPは2016年で22回を重ね、今や我が国を代表するオフロードモーターサイクルの国際大会として、東洋では最大、そして世界では第2位の規模となり700台を集めるまでになりました。

これまで参戦した世界のビッグネームは **RANDYホーキンス SCOTTサマーズ LARRYロスラー JASONレインズ STEVEハッチ PAULウェブリー RODNEYスミス CHARLIEムリンズ KAILUBラッセル JOSHスツラング JORDANアッシュバーン** など28人(複数回計では44人 HCNエンデューロを含む)。

また会場は スポーツランド菅生 チーズナッツパーク テージャスランチ グリーンバレー と転戦し、現在は我が国XCの聖地とも称される 爺ヶ岳スキー場でここ5年行われています。

そして、2014年AAGP併催として試験的に行われた「選抜ワイルドクロス」は支持を得て定着し、今後も社会へのアプローチを内包した稀有でエキサイティングなMC団体競技として、またJNCCライダーへ日頃の感謝の気持ちを込めて毎年無料開催を行って行きます。



## GNCCと相互派遣

RANDYホーキンスが来日する度に、GNCCが創り上げていった高いレース文化とその世界最高峰XCの素晴らしさを聞いてきたJNCC代表 星野正美は、GNCCのトップライダーをなんとか日本で走らせる事ができないだろうか一念し、USA東海岸はウェストバージニアにあるGNCC本部を訪ねたのが始まりです。

初GNCC公式派遣となった2006年のAAGP菅生に送り込まれたライダーは **PAULウェブリー** と **ROBBIEジェンクス** の精鋭二人で、前日土曜日に何度も真剣にスタート練習を繰り返す二人を見て、物見遊山ではない真剣さとスタートから飛び出せない勝てないであろうと思わせる次元の高さに、カルチャーショックを覚えたものでした。またこの大会で二人を迎え撃った全日本MXチャンピオンの **小池田 猛** は、このAAGPで彼らとバトルしたことが人生のターニングポイントになり、2012から4年間日本XC界のバイオニアとしてGNCCシリーズ参戦を行い帰国しました。

JNCCからのGNCC公式派遣は2009年から始まりこれまで多くのライダーを送り出してきましたが、現在は既派遣者を除くCOMPランキングシリーズ総合最上位者を、JNCC公式GNCC派遣者としてアテンダー(ヘルパー)付きで世界XCの頂点GNCCへ送り出しています。



写真は2015-AAGPにGNCCより派遣されたJoshスツラング

## What's JNCC ?

JNCCとはモーターサイクルを用いたアマチュアライダーによる全日本MCクロスカントリー選手権です。今子供達の携帯電話依存症やバーチャル指向が社会問題になる中、モーターサイクルクロスカントリー(XC)は老若男女が自然の中で調和し、人工エクセションをせずに、自然のありのままをセクションにリアルに行えるモータースポーツとして世界中で注目を集めています。

モトクロスという造成されたコースで速さを競う競技もありますが、JNCCが開催するXCはクローズドされた丘陵地や森、そして時には岩地や湿地帯などの自然のフィールドをバイクで駆け抜けるという競技であり、多くのストレスを抱えた現代人に「明日の活力を与える」と言っても過言でない、ワクワクドキドキの冒険がちりばめられた心躍る魅力に溢れたスポーツなのです。

自然の中でのモータースポーツという誰もが環境への懸念が先立つかもしれませんが、XCは自然との共存と調和を常に念頭に置いています。使用する競技車両は厳しい排ガス規制をクリアしているのでその排気は非常にクリーンであり、ありのままの自然の中を走る競技故に、木々を伐採し消失させる事はありません。

そして毎年確実に厳しくなっていく騒音規制にも厳格に対応し成長するこのXCは、正に環境と社会との調和にも配慮したモータースポーツと言えるでしょう。

JNCCはスピードを競う競技ではありませんが、時には厳しさが目を刺す自然の中で自らを信じ、一方では走走を目指す競技です。2013年からは小学3年生以上へ向けた「キッズ&トライ」クラスを新設し、より多くの方にこの素晴らしいXCを知っていただき、その中で理性を養いフェアプレイの精神を学んで頂きたいと願い、全国で開催を行なっています。

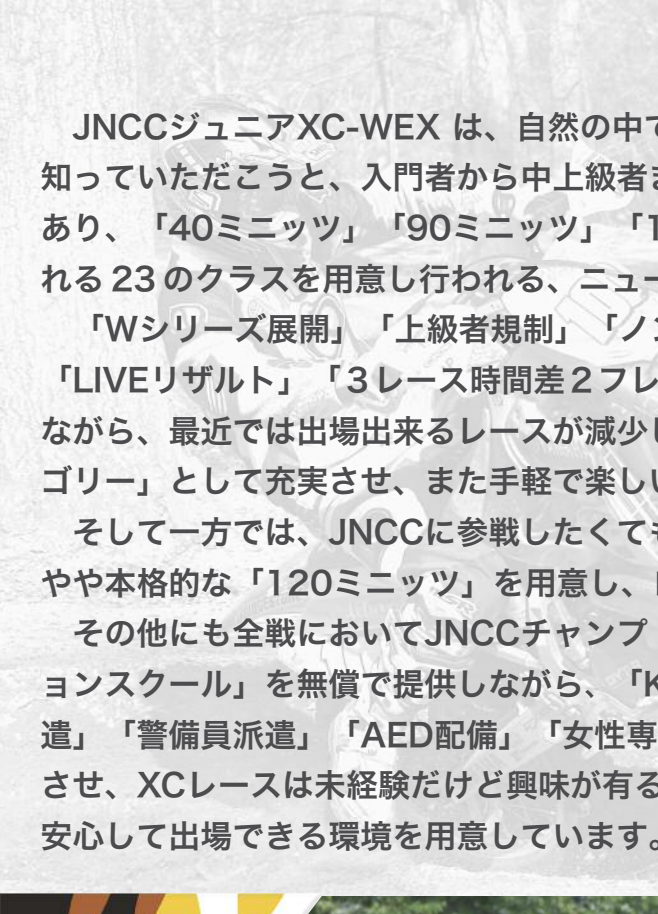


## 開催4つの神器とコーステープ

神器などと言うとすごく大きさに聞こえるかもしれませんが、スキー場などの高低差がある広大なコースを利用するJNCCにとって、「USバギー」「USクワッド」「ワダチ用コンボ」「散水車」のそれぞれは、迅速な救護に、迅速なコース修復に、そして今後益々問題視されていくであろうアウトドアスポーツのホコリ対策に不可欠であり、また年々5回開催の設営を高次元に消化していくためにはなくてはならない設営作業の必須アイテムで、スタッフにとっては百人力の頼もしい相棒なのです。

今後爺ヶ岳では「US9人乗りバギー」を導入してガイド付きの「ミニ観戦ツアー」も計画されていますが、まずはライダーメリットへ素晴らしい反映を及ぼす、JNCCスタッフにとっての「開催4つの神器」を写真紹介させていただきます。

☆なお **安全なコースコンディション維持に欠かせないコーステープ** ですが、最近の資材高騰より非常に高価になったばかりではなく、製品自体があまり見られなくなってしまいました。しかしJNCCに於いては絶対に不足してはならないコーステープであるからして、視認性や耐久性に富んだコーステープを年間1500本を毎年定期的に製作し、また在庫は500本を切る事が無いよう注意を払いながら、毎開催において「コーステープを潤沢に使用」し、高いコースコンディションの維持を保っています。



## What's WEX ?

JNCCジュニアXC-WEXは、自然の中で行われるXCの醍醐味をより多くの方に知っていただく、入門者から中上級者までを対象に行われる競技志向のXC競技であり、「40ミニッツ」「90ミニッツ」「120ミニッツ」の3レースに誰もが主役になれる23のクラスを用意し行われる、ニューウェーブなXC選手権です。

「Wシリーズ展開」「上級者規制」「ノンストップ・リアルタイム順位表示」「LIVEリザルト」「3レース時間差2フレックス受付」「固定ゼッケン制」を打ち出しながら、最近では出場出来るレースが減少してしまった公道走行車を「テーピングカテゴリー」として充実させ、また手軽で楽しい「モベ改造」クラスも用意しました。

そして一方では、JNCCに参戦したくても遠征出来ないという中上級ライダーの為にやや本格的な「120ミニッツ」を用意し、ロコライダーの熱い走りにも応えます。

その他にも全戦においてJNCCチャンプ 小池田 猛 による前日「TK-実戦的セクションスクール」を無償で提供しながら、「KTMオレンジヘルプ」「救急救命チーム派遣」「警備員派遣」「AED配備」「女性専用トイレ設置」等のホスピタリティを充実させ、XCレースは未経験だけど興味があるという方や、長い間遠ざかっていた方でも安心して出場できる環境を用意しています。



## JNCC & WEX 無料 観戦傷害保険

JNCC & WEXでは2017年より、競技車両の飛び込み事故などにより生じた傷害を補償する有料の観戦者保険を、**JNCCが代わりに「JNCC無料観戦傷害保険サービス」を実施**しています。

観戦者の「JNCC無料観戦傷害保険サービス」加入には何のリスクもありませんが一人ひとりが保険加入契約をするわけですから、JNCCでは「入場管理デスク」にて、またWEXでは「大会本部」にてシンプルなお申し込みがあります。このお申し込みをきちんと行わない限り、例外なく一切保険対象にはなりませんのでご注意ください！

- ※コース内は保険対象外となります。よってスタックスウィーパーは、保険対象外になります！
- ※コーステープが切れた場合、付近にいるとコース内と解釈され保険対象外となる場合があります。
- ※ピットエリア内は「ワークスビット」も含め、保険対象外になります。
- ※この保険にはコーステープから安全上適切な距離を置くことが条件付けられています。よって状況によりコーステープから「1~5m」離れる安全マージンを取らなければなりません。
- ※保険条件として、事故日の「救護チームへの申告」がありますので、絶対に忘れませんように。
- ※エントランスの観戦時事故補償につきましては、スポーツ安全保険でカバー出来ますので「JNCC無料観戦傷害保険サービス」への加入は不要です。

### 補償内容

死亡・後遺傷害	5,000万円
入院 1日	15,000円 (事故発生1日目から180日限度)
通院 1日	5,000円 (事故発生1日目から90日限度)

## フィニッシャーズロード

2002年のAAGP菅生でJASONレインズが目を見張る走りで見事な優勝を挙げた際、ゴールで祝う者は誰もいませんでした。

これをふまえて見たい JNCC代表 星野正美は強い問題意識を覚え、またこんな事はXCの発展にあり得ない強い危機感を感じ、それなら「**様々な試練を乗り越えて長時間を走り走したライダーを優勝とは別の視点で讃えよう!**」と、ゴール周辺の観客や関係者の袖を引き、やや無理やり始めたのがフィニッシャーズロードでした。

当初のフィニッシャーズロード招集は本当に大変で、大声を護しながらお願いする様に不信感を抱かれたり、集まらないときはスタッフどころか看護士さんや売店のおばさんまでお願いしたりと、止めたくなくとも多々ありました。

しかし、今でも忘れない2007年初開催となったビックティア広島西日本大会で、全くの初開催地にもかかわらず、またフィニッシャーズロードの招集要請をそんなにかけていない状況にもかかわらず、観客がFUN-GPのゴール直前には80mにもなるというフィニッシャーズロードを覗かせてくれたのです。この瞬間フィニッシャーズロードはJNCCの手から離れ、正に日本のレース文化に根付いたと思えました。

このJNCCスピリッツの原点とも言えるフィニッシャーズロードですが、JNCCもWEXも決してこの精神を忘れることなく、今後も大会運営を行って行きます。



JAPAN NATIONAL CROSS-COUNTRY